

怖そう と 本当に怖いもの

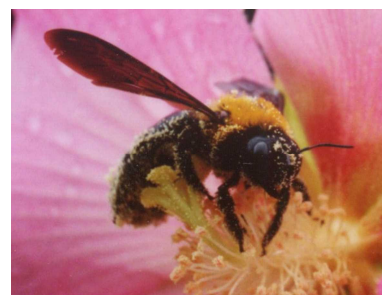
1. 怖くない蜂 (地図中①地点)

太陽が顔を出すと、遊歩道や頂上、長谷の八十八ヶ所など開けた場所で黒いハチがホバリングしています。ナワバリに入ってきたものはチョウや鳥でも追っかけ、また元の場所に戻ります。

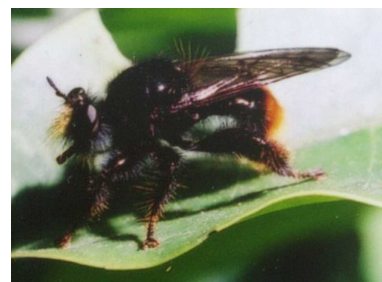
この蜂は胸が茶色であればクマバチ、腹端が茶色なのはクロマルハナバチで、雄のみです。

ハチの針は産卵管です。雄にはないため、ナワバリを作っているハチを手で捕まえても刺すことはありません。

雌は花蜜と花粉で花粉団子を作り、枯れ木などに開けた穴に入れて卵を産みつけ、幼虫の餌とします。攻撃性はないのですが、雌は刺すこともあり、花に来ている場合は手をつかまないようにします。



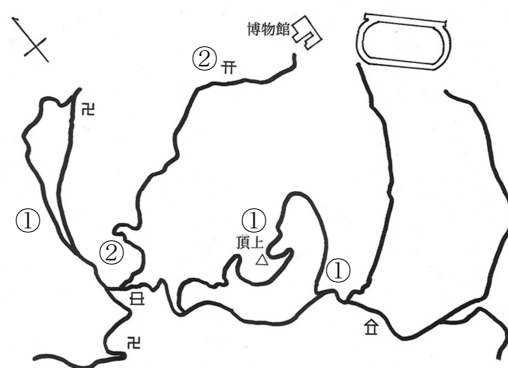
クマバチ



クロマルハナバチ

盗蜜(とうみつ)とよぶ行動

クマバチは口吻が短いため、花筒が長い花では奥の蜜腺まで届きません。そこで、花筒の途中をかじって穴を開け吸蜜します。頭を突っ込んで吸蜜するときに花粉が虫につき、花粉を運んでもらうしくみになっている花にとって、蜜を提供する意味がない行動です。



2. 怖いツタウルシ (地図中②地点)

打吹山でウルシかぶれをおこすものは、ヤマウルシ、ヤマハゼ、ハゼノキもありますが、一番強いのは知られていないツタウルシです。

小葉が3枚で。壁面や幹に付くツタの若木の葉に似ていますが、葉に光沢があり、葉縁が滑らか、枝が面から離れるなどで、区別できます。地面をはっていることもあります。

美しい紅葉は、かぶれを起さないツタ同様です。



ツタウルシ



ツタウルシの葉



ツタの葉

ウルシかぶれのしくみ

樹液に含まれるウルシ

オールがアレルギーとなり、抗体反応が水泡やかゆみをおこします。初回の接触ではかぶれることはほとんどなく、接触回数を重ねると反応が強くなり、症状がでます。一度症状が出ると、次回からはだんだん強くなります。